



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(38) ジェリーボールクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(38) ジェリーボールクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-10-19

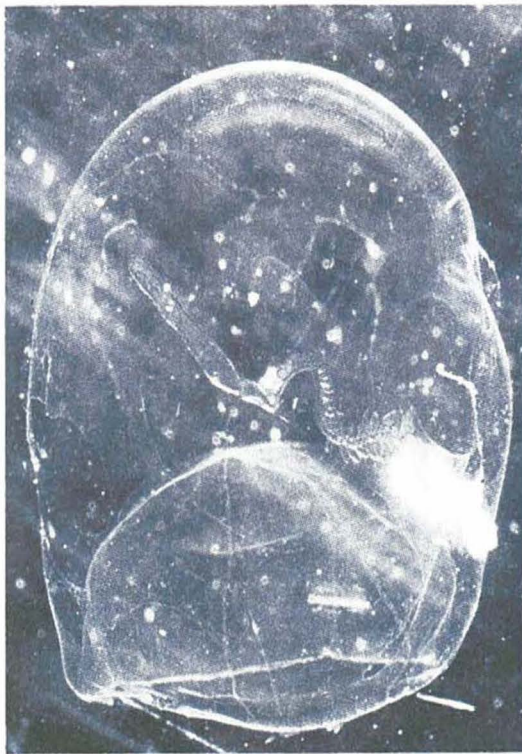
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180171>

RIGHT:

© 紀伊民報社

ジェリーボールクラゲ



真ん丸い形をしたジェリーボールクラゲ

久保田 信

38



直径数ミリの小さな球状をしたジェリーボールクラゲ。とても柔らかくて、ふにゃふにゃだ。プランクトンとして遊泳生活しているのに不思議な形をしている。球状は最も沈みやすい形なのだ。

遊泳生活するすべての生き物がこの形になるのを避けているのに、本種はわざわざこの形になったのはなぜだろうか？。

下半部は普通のクラゲのようには空洞で推進器になっていない。この中の海水を噴射して拍動するのを見たことはない。なかなか元気な姿で採取できないからだ。もう、壊れやすい体なのだ。空洞の内側の壁には、消化した餌を体の隅々に送る4本の細い管が走っているのが見える。

このクラゲはおそろしく柔らかい体の特殊ジェリーなのだ。

で、比重が小さいのであろう。だから沈みにくいことが考えられる。画像の真ん中から右に向かって白い部分があるが、これが本体だ。ギザギザした部分が中央に見えるが、このように個虫が多数規則的に配列されている。この本体が長く伸びるので、さまざまな個虫が海中にむき出しになる。個虫の大半が餌を捕まえて食べる口を持った胃袋で、これらが多数房になって連なっていると思ったらしい。したがって、これらによっても抵抗が生まれ、沈みにくいのだろう。

本体の糸状の幹に連なるこの複雑な部分はとてもよく伸縮するので、採集すると画像のように収縮してしまう。有性生殖は、特殊な形の、まるで植物のマキの実を連想させる小さなクラゲを遊離させる。しかし、管クラゲの生活史は謎だらけで、飼育例が限られているので、一生の形の変化は未知のままで。

(京都大学准教授)